

松下幸之助記念財団 研究助成

研究報告

【氏名】黒木 貴人

【所属】(助成決定時)広島大学大学院

【研究題目】ロシア連邦教育政策過程におけるロシア教育アカデミーの機能・役割

【研究の目的】

ロシア連邦教育政策過程においては、いわゆる「国家」とは異なるロシア教育アカデミー(以下、アカデミー)という組織が、重要なアクターとして存在している。ロシア連邦においては近年、「連邦国家教育スタンダード」(我が国の学習指導要領に相当:以下、スタンダード)が制定され、地方・民族の利害も反映した新たな教育制度が運用され始めた。このスタンダードの制定にはアカデミーが深く関わっている。また、教科書検定や教育課程基準など、様々な教育政策にアカデミーは携わっている。

本研究においては、ロシア連邦の教育政策過程において、アカデミーがどのような役割を果たしているかを考察することを通じ、我が国教育行政学研究における積年の課題の一つである「教育と国家の関係性をいかに構築していくべきか」との問いに対して、「教育」と「国家」を結ぶ新たなアクターの可能性を提起することを目的とする。具体的には、近年本格実施が開始された「連邦国家教育スタンダード」の形成過程を対象とし、そこへのアカデミーの関与を考察する。

【研究の内容・方法】

アカデミーに関する資料(史料)は、現在我が国では明らかとなっていないものが大半である。従って、それらを蒐集し、翻訳・分析していくことは、学術上非常に意義があり、重要な作業と言えよう。

我が国で明らかになっていない部分が多いということはすなわち、国内でアカデミーの資料にアクセスすることは一定の制約を有しているということも意味している。現在、アカデミーに関する一次資料は、インターネット上において公開されているアカデミーのホームページから幾つかは入手できる。しかし、それらはあくまでアカデミーの歴史や規約、会員情報など、あくまで組織の概要を示すものである。従って、それらをもとに、本研究で意図するようなアカデミーの教育政策過程上の役割に決定的に迫ることは困難である。

本研究においては、これまで我が国では公開されていないアカデミーの資料を蒐集および翻訳・分析を行う。具体的には、スタンダードの制作、制定に直接関わったアカデミー内国家教育戦略研究所を訪問し、関係資料の蒐集にあたる。また、アカデミー内公文書館も訪れ、ロシア教育政策史上アカデミーが如何なる役割を果たしてきたのか、ということに迫るような史料の蒐集もしたいと考えている。

また、「連邦国家教育スタンダード」の制作、制定にはアカデミーの中でも国家教育戦略研究所が関わっている。しかし、どのような関与をしていたのか、ということまでは明らかになっていない。

「連邦国家教育スタンダード」は国家の政策であるため、もちろん議会内での様々な議論や承認が必要となる。そこには、様々なアクターが絡んでいることは想像に難くない。その諸アクターの中で、アカデミー関係者はどのような立場でスタンダード制定の議論に参加していたのか、また他アクターとはどのようなせめぎ合いがあったのか等、関係者へインタビューしていきたい。

【結論・考察】

現地レーニン図書館やアカデミー図書館等で入手した資料も踏まえ、スタンダード形成過程におけるアクター間関係について考察した。

ロシアの諸制度はプーチンの登場以降、中央集権化ないしは独裁化傾向が強化されていると言及されることが多い。しかしながら、連邦中央は一方的に地方に対する権限強化を図っているわけではなく、むしろかなり気を配りながら制度改革をしていると言える。とりわけ、多様な民族や文化を有するロシアにおいては、彼らの利害や主張を与してこそ、有効な教育統治を達成することが可能になるとも考えられる。その調整は、自律性を有するアカデミーが負っている様子が看取された。アカデミー教育戦略研究所所長コンダコフをはじめ、アカデミーはスタンダードに関わる連邦教育政策を遂行する上での主要な会合や会議において重要な役割を担い、連邦構成主体を含め各利益団体の利害調整を行なっていることが窺える。